

1 はじめに

コロナ感染症の拡大や水害により、日本全国の学校が大変な1学期となりました。7月末には、宮崎県でも再びコロナウイルスの感染拡大が始まり、一昨日は延岡市で4名の方の感染が報道されました。

そんな中、本日は当初の予定を変更し途中下校となりますが、なんとか期末テストと終業式を終えることができたことに胸をなで下ろしています。

1学期の登校日数は1年生が57日、2・3年生が59日でした。いつもなら、学校で過ごすことも部活動ができることも当たり前のことですが、その「当たり前」がどれだけありがたいことなのか、本当に一人一人が心に刻んだ、そんな1学期だったのではないのでしょうか。

2 1学期を振り返って

最近、心に残った言葉を2つ紹介しておきます。

先に行われた「中学校特別スポーツ大会2020」と「吹奏楽サマーコンサート」を前に、3年生が書いた「応援メッセージ」の中に見つけた言葉です。

- 「3年間で最後の大会が奪われたのは悔しいけれど、出せるだけの力を出して自分の役目を果たします」
- 「キャプテンとしても一人の選手としてもたくさんの人から応援されるチーム・選手でありたいです」

心引かれたのは「悔しい」という素直な気持ちです。そして、それにもめげず、自分の「出せるだけの力を出そうとする」意思です。さらに「自分の役目を果たす」というチームプレーの原点です。また、「キャプテンとして」あるいは「一人の選手として」複数の立場でものを見る、そのものの見方・考え方です。そして「応援されるチーム・選手でありたい」と願うゴールのイメージです。

私もいくつかの試合を観戦しましたが、勝ち負けにかかわらず、どの試合もこの2つの言葉にふさわしい試合内容でした。

部活動の本当のゴールが「勝ち・負け」でないのは言うまでもありません。自分のもっている力を出し惜しみせずぶつけ「全力で」挑むという出発点。また、敵味方の区別なく、誰からも愛され、リスペクトされ、応援される人間・チームでありたいと願う理想の終着点。その心の持ちようが一番大切なところだと思います。

選手諸君のひたむきな姿は、試合当日、保護者だけではなく、会場の多くの参観者の心に届いたことと思います。改めて、健闘をたたえます。

他にも、皆さんの優しさや思いやり、あるいは頑張りなど、紹介したいエピソードは毎日の学校生活の中にたくさんありました。日常の一コマ一コマに成長を感じています。

3 2学期に向けて

ところで、本来なら、今日は通知表を渡すべき大事な日ですが、授業日数、定期テスト等の関係から、10月と3月に渡すよう変更しました。また、体育大会や合唱コンクール、総合的な学習の時間、そして2年生の修学旅行など、これから先、2学期以降に計画している行事についても、規模の縮小や中止、あるいは延期など、状況に応じ、意に反して苦渋の判断をしなくてはならないことも想定しています。

このように、例年通りにできないことはたくさんありますが、それを数えることよりも、今、この状況の中でできることを一つでも多く見つけ、それを磨くことに力を注ぐプラス思考であってほしいと強く願っています。特に、3年生の皆さんには、苦しい中であってなお、工夫さえすればみんなで大いに喜んだり、楽しんだりすることができるということを、2学期、先頭に立って証明してほしいと思っています。

4 おわりに

明日から23日間の夏休みです。例年に比べると大変短い夏休みですが、短いからこそ、それぞれにとって有意義な時間となることを祈ります。

2学期の始業の日。過ごした時間の「量」とその「質」が、皆さんをまたひとまわり大きく成長させてくれることに期待しています。よい時間を過ごしてください。